

罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 26 (2014) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 28 (2016) 年 12 月 20 日現在

罹患年月日の決め方

① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする。

② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする。

集計の対象

① ICD-0-3 分類の性状 2 (上皮内), 3 (悪性、浸潤性) で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1 (良性・悪性の別不詳: 例 悪性の明示のない〇〇腫瘍) で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

精度指標

DCN: 遡り調査結果未反映にて計測なし

国際 DCO: 10.1%

I/M: 2.19

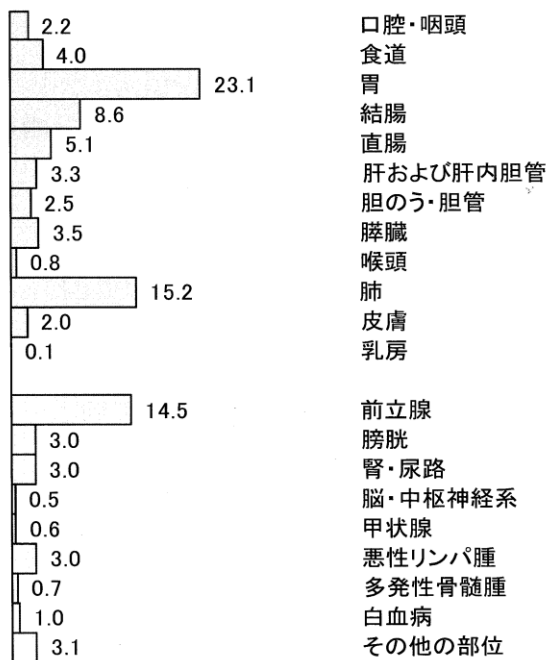
■ 罹患の概要

2014 年に山形県において、男性延べ 5,219 件、女性延べ 3,573 件の、合計延べ 8,792 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、前立腺、肺、結腸、直腸、食道と続く。女性で最も多いがんは胃がんに戻り、乳、結腸、肺と続く (図 1)。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A から作成)

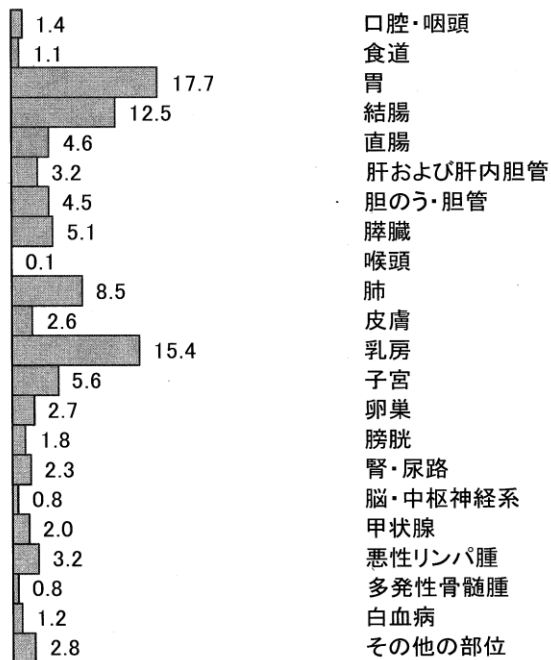
男性 全年齢

5,219 件



女性 全年齢

3,573 件



## 年齢別に見たがんの罹患

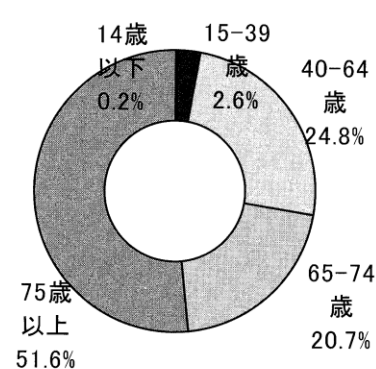
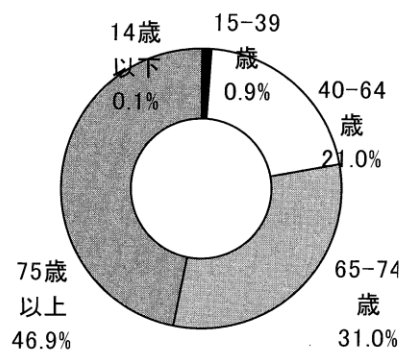
年齢別にみると、2014年に新たに診断されたがんについて、約半数が75歳未満であった。15歳未満の罹患、いわゆる小児がんは、昨年は16例で、今年は15例であった(図2)。

15-39歳女性では、子宮27.1%と最も多く、次いで乳房26.1%と続く。40-64歳で罹患数の多い部位は、男性では胃24.7%、肺11.9%、前立腺11.4%である。女性では乳房32.2%、胃12.3%、子宮10.5%であった。(図3)。

罹患率をみると、ほとんどの部位のがんは年齢が高くなるほどかかりやすい。男性の胃がんについては、75-84歳でピークがあり、結腸・肺では85歳以上でピークがある。前立腺がんは、70-75歳にピークがあり、75歳以上では減少している。女性の乳がんについては、40-49歳のピークと60-64歳の小さいピークのダブルピーク型である。子宮頸部については、35-39歳の年齢層でピークがあり、子宮体部は70-74歳の年齢層でピークとなっている。(図4)

図2 年齢別内訳 (%) (表2-Aから作成)

	男性
14歳以下	7
15-39歳	48
40-64歳	1,097
65-74歳	1,617
75歳以上	2,450
合計	5,219



	女性
14歳以下	8
15-39歳	92
40-64歳	887
65-74歳	741
75歳以上	1,845
合計	3,573

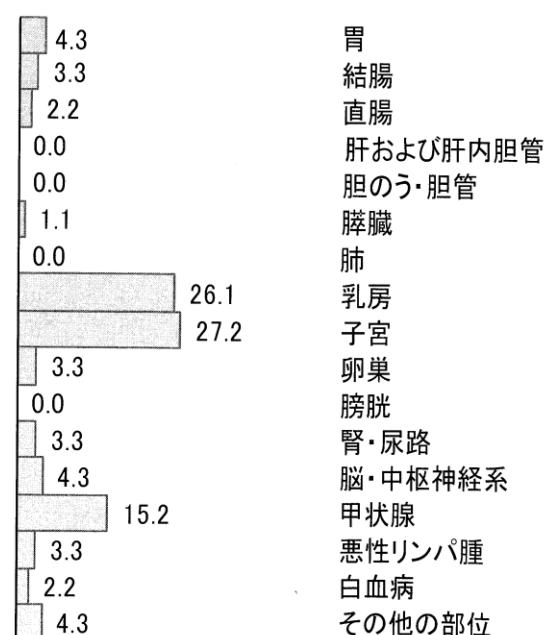
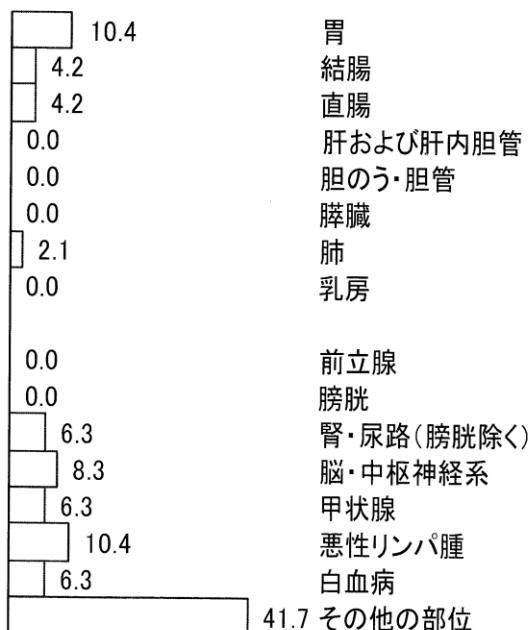
図3 年齢別部位内訳 (%) (表2-Aから作成)

男性 15-39歳

48件

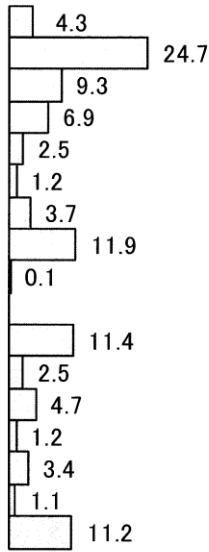
女性 15-39歳

92件



男性 40-64歳

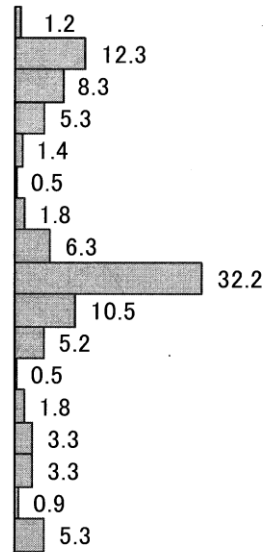
1,097 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
前立腺  
膀胱  
腎・尿路(膀胱除く)  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

女性 40-64歳

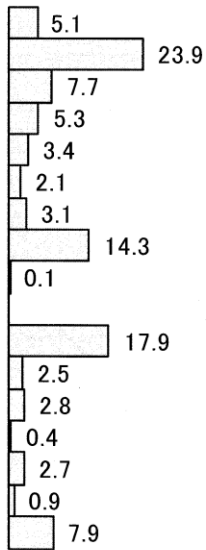
887 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
子宮  
卵巣  
膀胱  
腎・尿路  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

男性 65-74歳

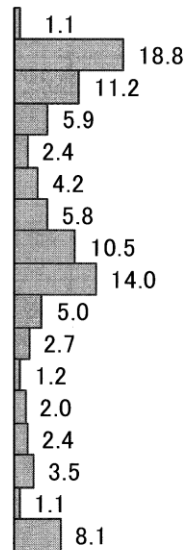
1,617 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
前立腺  
膀胱  
腎・尿路(膀胱除く)  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

女性 65-74歳

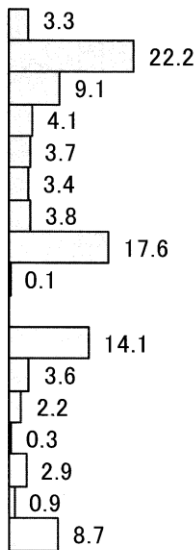
741 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
子宮  
卵巣  
膀胱  
腎・尿路  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

男性 75+歳

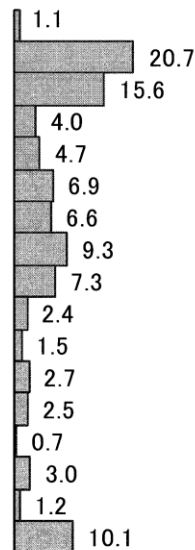
2,450 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
前立腺  
膀胱  
腎・尿路(膀胱除く)  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

女性 75+歳

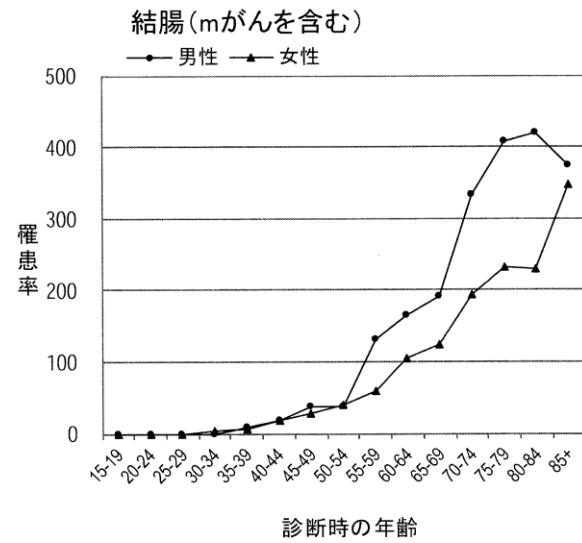
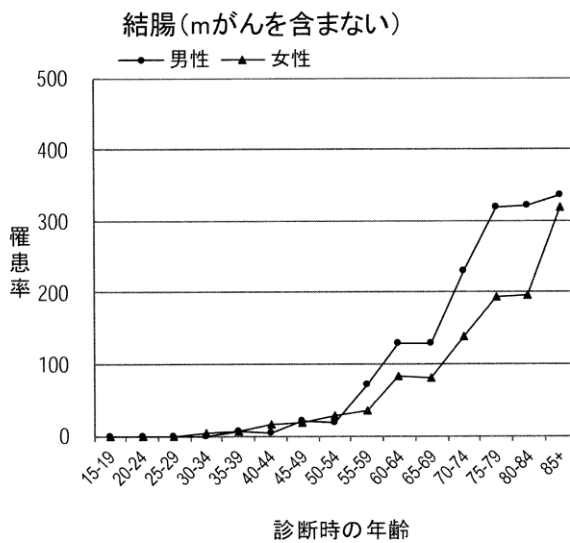
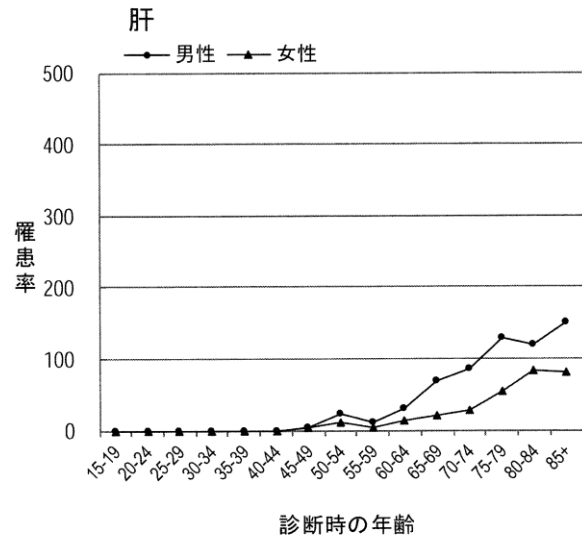
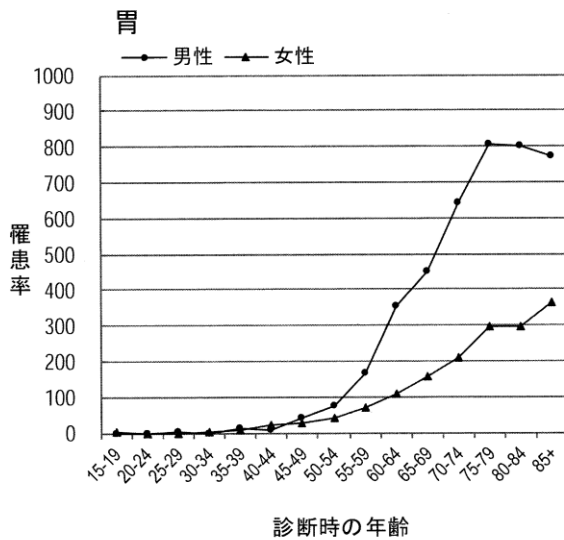
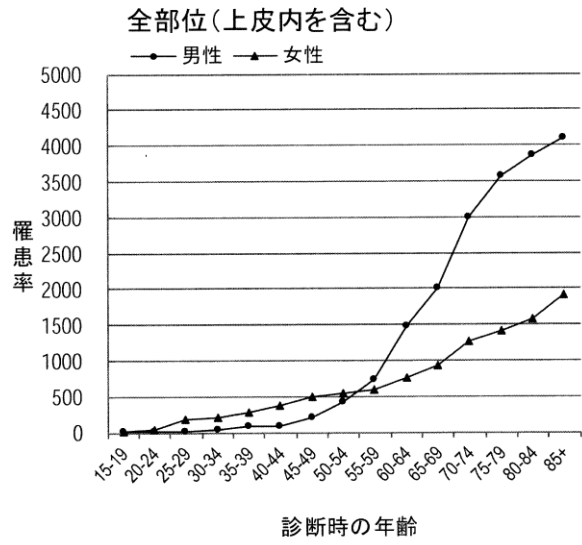
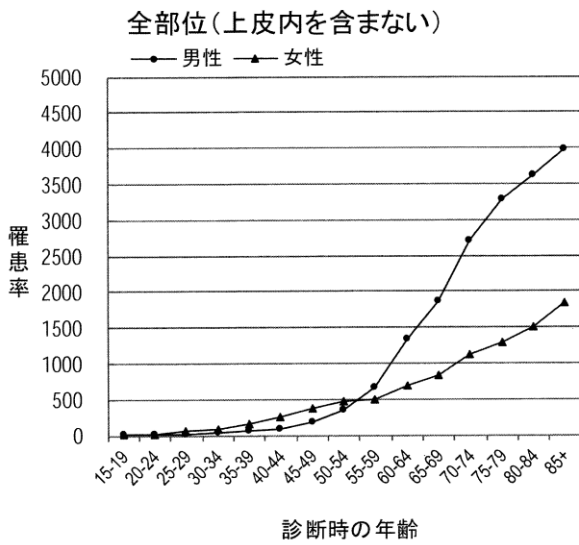
1,845 件



食道  
胃  
結腸  
直腸  
肝および肝内胆管  
胆のう・胆管  
膵臓  
肺  
乳房  
子宮  
卵巣  
膀胱  
腎・尿路  
甲状腺  
悪性リンパ腫  
白血病  
その他の部位

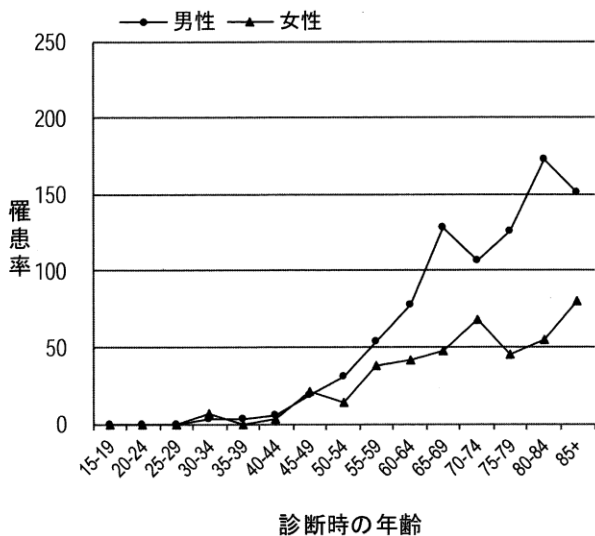
図4 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対  
図 年齢階級別罹患率

(表3-A、Bから作成)

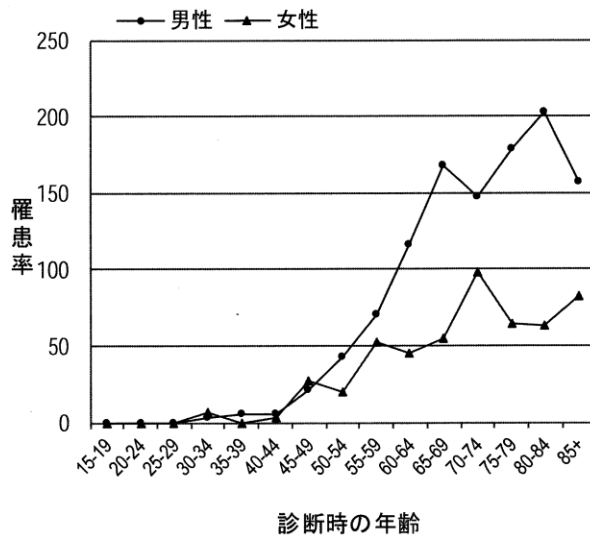


注) m がんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（m がん）は上皮内がんとして扱う。

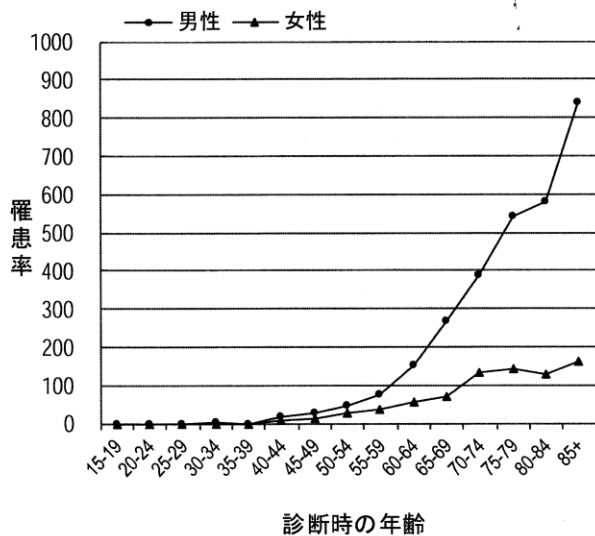
### 直腸 (mがんを含まない)



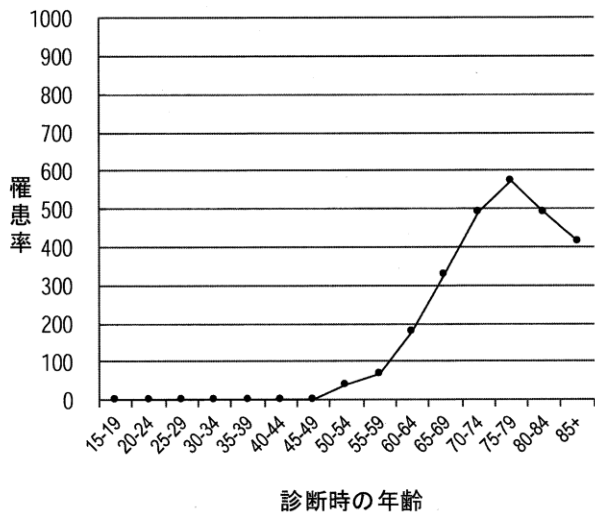
### 直腸 (mがんを含む)



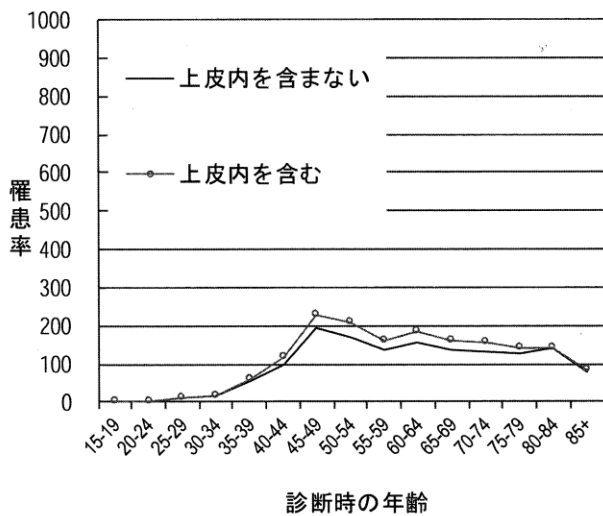
### 肺



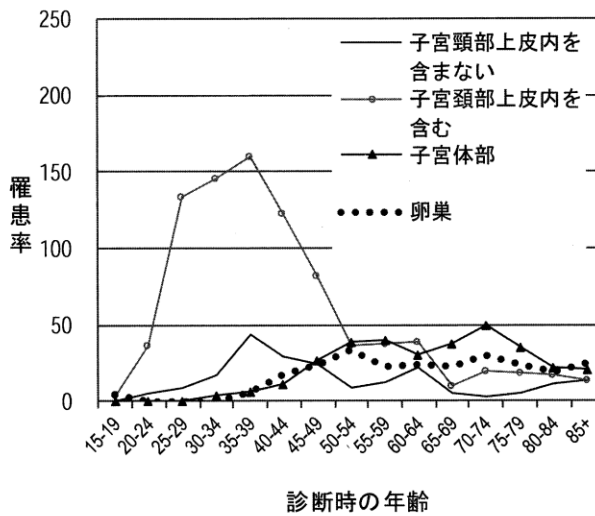
### 前立腺



### 乳房(女性)



### 子宮・卵巣

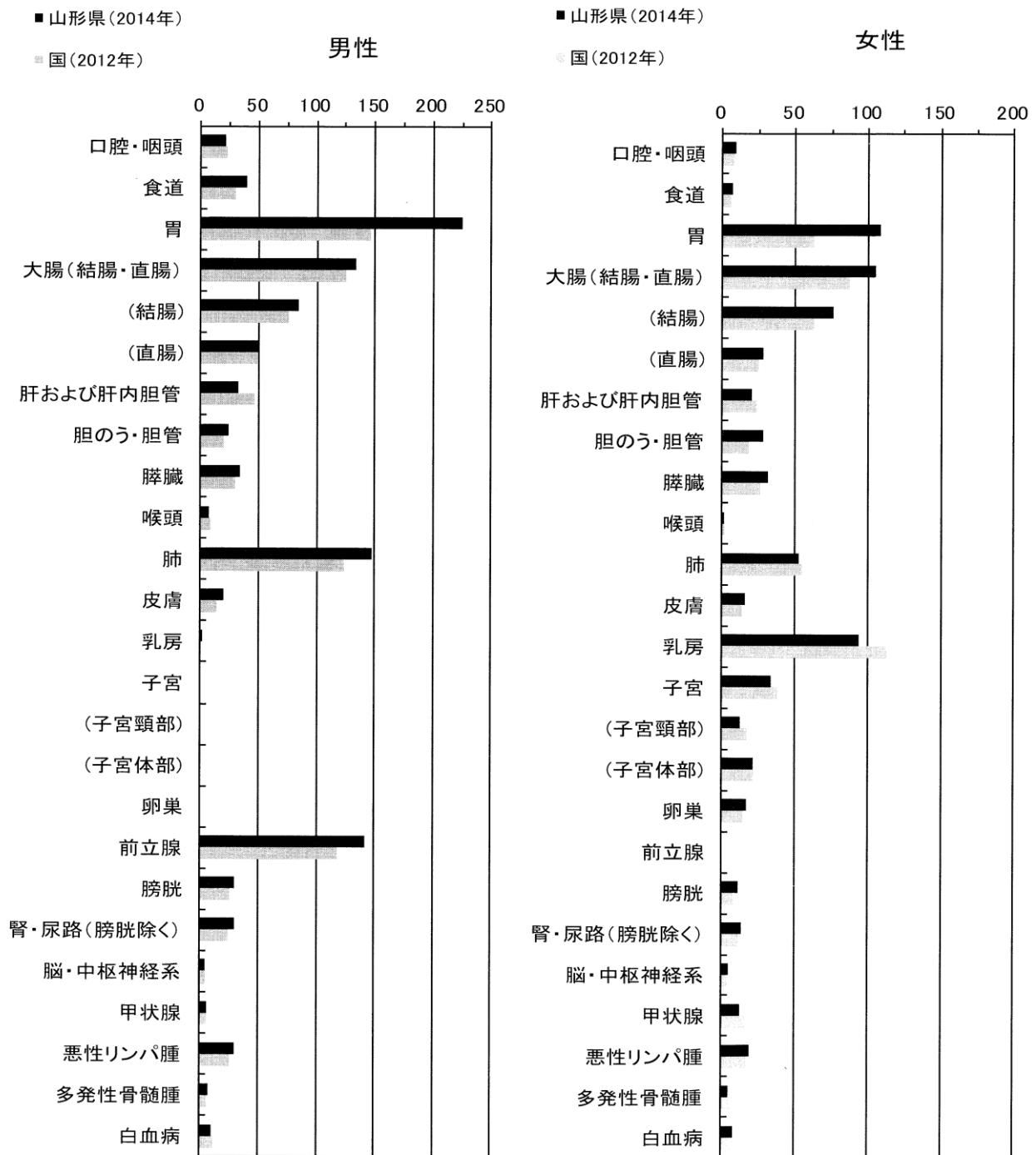


## 山形県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較してほぼすべての部位において、本県の罹患率が高かった。特に、男女ともに本県の胃がんの罹患率が明らかに高い。逆に全国と比べ男女とも罹患率の低い部位は肝および肝内胆管のみで

ある。男性は、口腔・咽頭、喉頭、白血病で、女性は乳房、子宮、肺、甲状腺、多発性骨髄腫の罹患率で全国値より低かった。

図5 部位別がん罹患率：人口10万対（表1-Aから作成）



国の値は、がん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2012年罹患数・率報告」より引用。

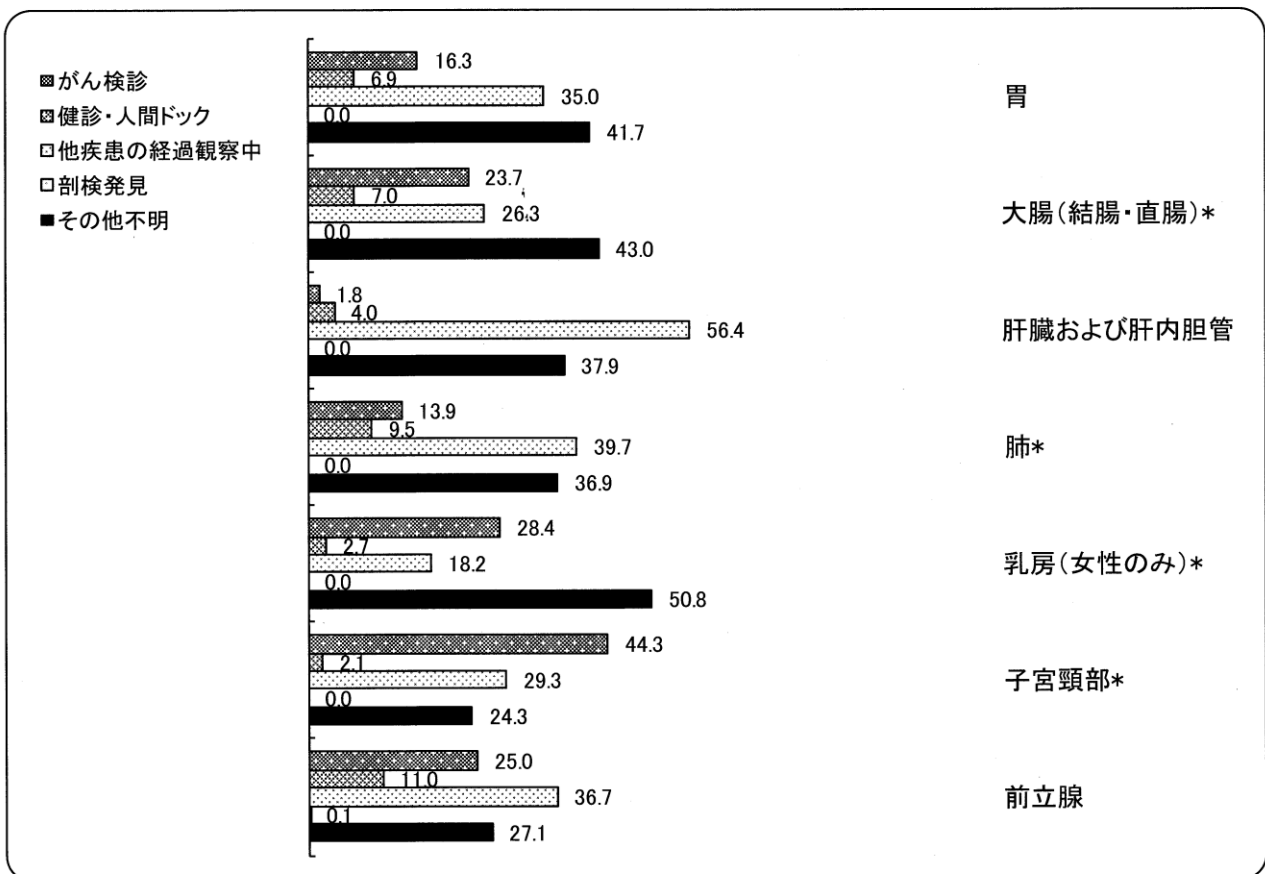
## 発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 23.2%、大腸 30.7%、肺 23.4%、乳房 31.1%、子宮頸部 46.4%であった。前立腺がんは一般に住民検診が推奨されていないが、36.0%であった。子宮頸部での検診、

健診での発見率が高く、発見病期早期の割合の高さにつながっている。

その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。検診実施部位においては、その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

図6 部位別発見経緯 (%) : 対象は国内 DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)



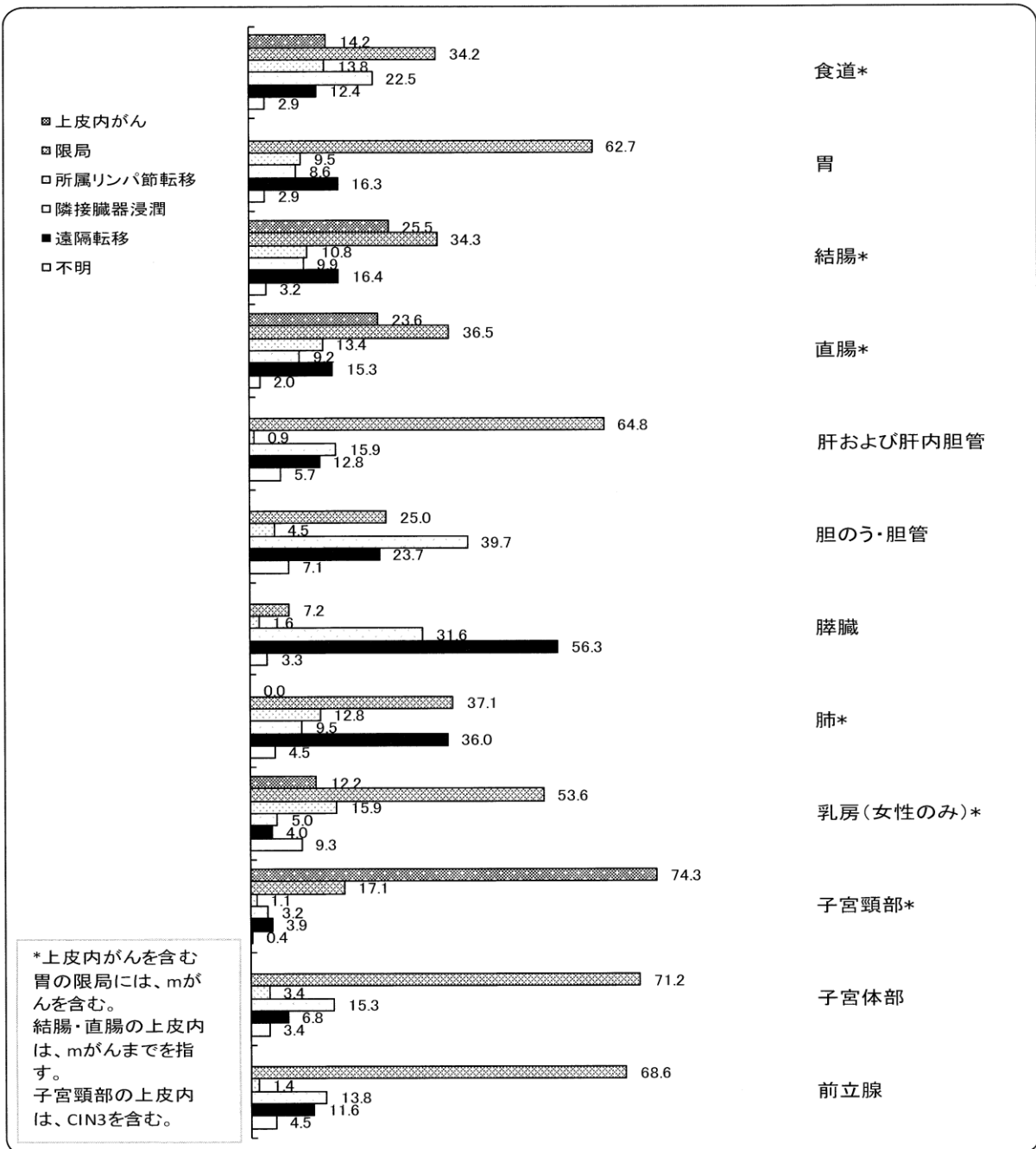
\* 上皮内がんを含む

## 病期

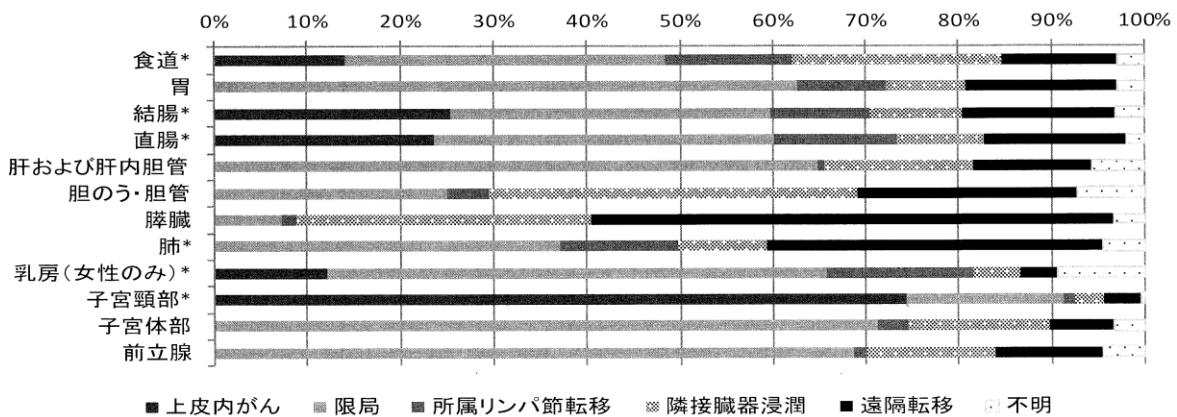
胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺、肝および肝内胆管では、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が60~70%を占めていた。子宮頸部では、上皮内がん、限局がんの割合が90%

を超えた。また、全ての部位で、不明の割合が減少しており、適切に病期分類が行われることでその後も適切な治療法が選択されていることがうかがえる。

図7 部位別発見時の病期(%)：対象は国内DCOを除く届出患者 (表5-A、Bから作成)



\*上皮内がんを含む  
胃の限局には、mがんを含む。  
結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。  
子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。



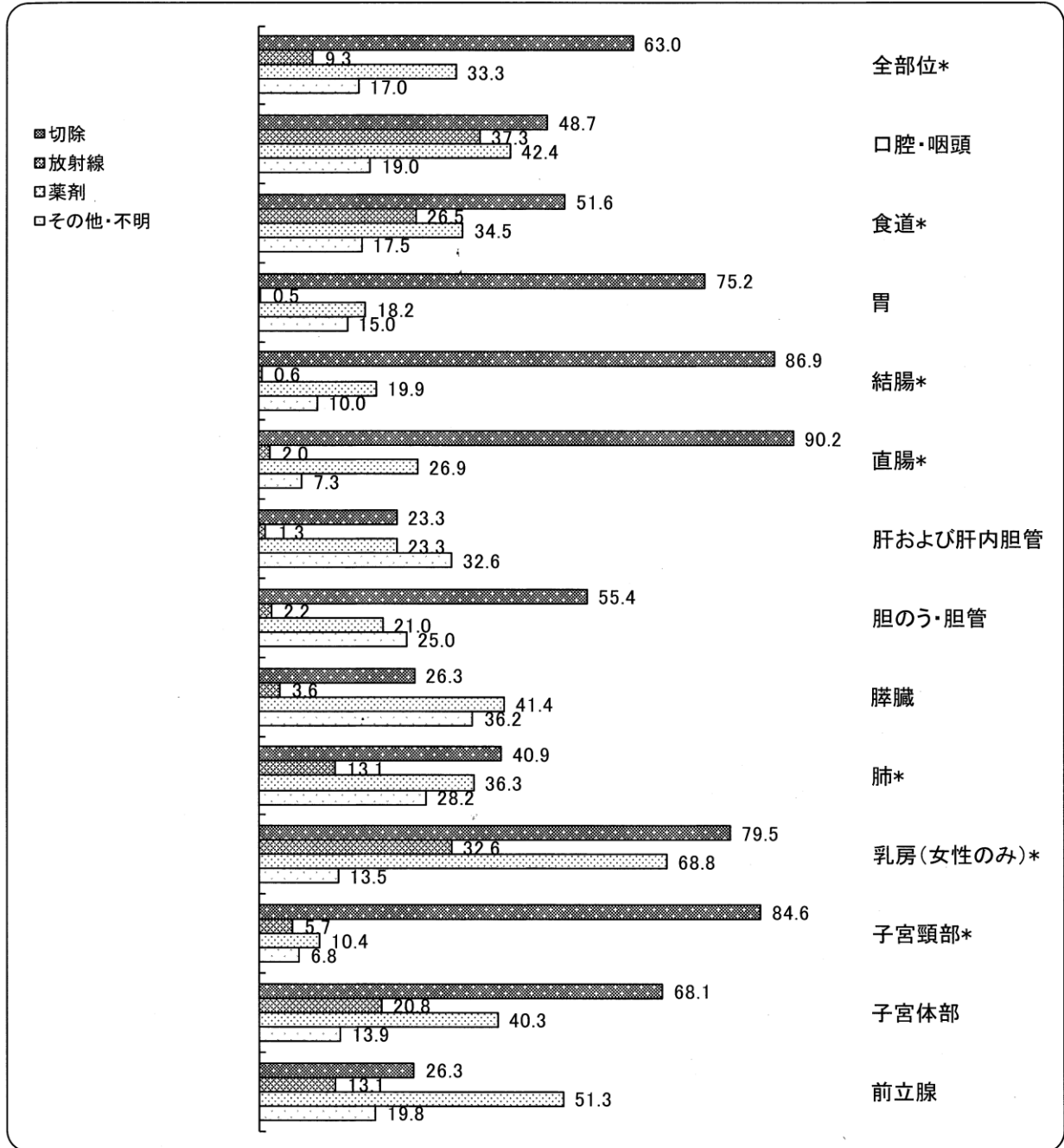


## 初回治療の方法

全体的に切除例の増加がある。食道、胃、結腸、直腸では内視鏡、胆のう・胆管、肺では体腔鏡での切除割合が増加したと考えられる。子宮頸部での円錐切除が、大きく生検組織をとる診断的意味の他に早期がん（0期、Ia期）では治療的意味も含むため、診断のための円錐切除

術が結果的に治療となった症例も切除例に含まれると考える。また、口腔・咽頭の薬剤治療では、42.4%を示しているが、2012年12月に分子標的薬の頭頸部癌への適応が承認となっており、山形県でのデータへの反映など薬剤治療の変化の推移を見守りたい。

図8 初回治療の方法（%）：対象は国内DCOを除く届出患者（表6-A、Bから作成）



\* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。